

汐留地区における下水再生水の路面散水に関する実験結果の概要

1. 調査概要

- ①調査場所：東京都汐留土地地区画整理事業地区（シオサイト）（図-1、2）
- ②調査期間：平成17年8月1日（月）～9月22日（木）
- ③散水に使用した水：東京都芝浦水再生センターで高度処理した下水再生水



図-1 再生水が散水された路面の様子
（東京都汐留土地地区画整理事業地区）



図-2 路面に散水される再生水
（東京都汐留土地地区画整理事業地区）

2. 調査結果

- 保水性舗装への散水により路面温度が緑地相当に低下
保水性舗装の散水実施区間と散水未実施区間（図-3）の路面温度分布をサーモグラフィで測定した結果、散水実施区間は、散水未実施区間に比べ、13時で8度程度（46℃→38℃）、18時で3度程度（31℃→28℃）低下し、緑被化された中央分離帯と同程度の温度になりました（図-4）。
- 日中だけでなく夜間にも温度低下効果が持続
保水性舗装の散水実施区間と散水未実施区間の舗装内温度（地表面下 2.5cm）を測定した結果、散水実施区間は、散水未実施区間に比べ、日中におけるピーク温度の低下だけでなく、夜間においても温度が持続的に低下することが確認されました（図-5）。

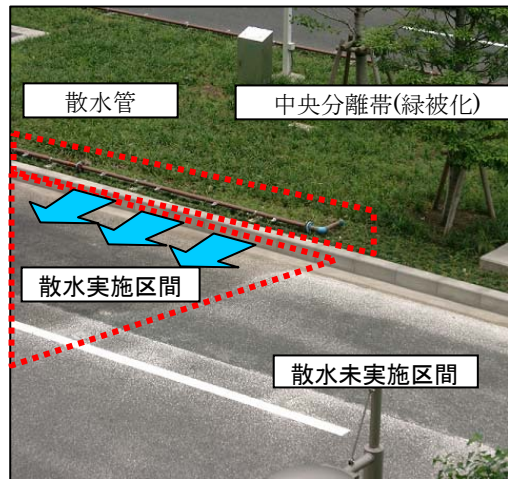


図-3 散水対象の路面状況（保水性舗装）

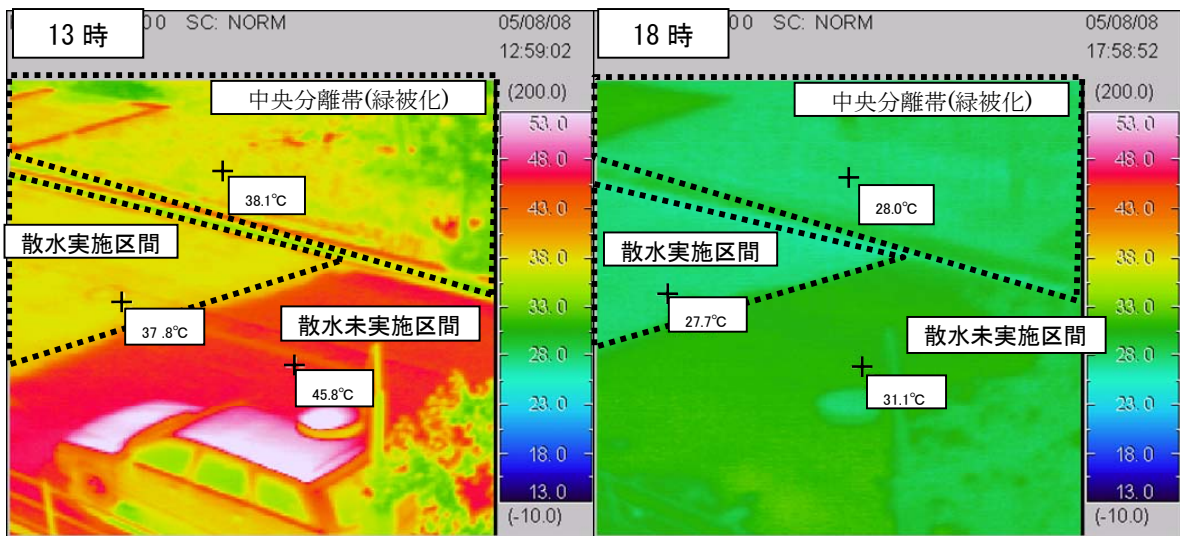


図-4 散水実施区間と未実施区間の路面温度の比較（サーモグラフィによる測定結果）

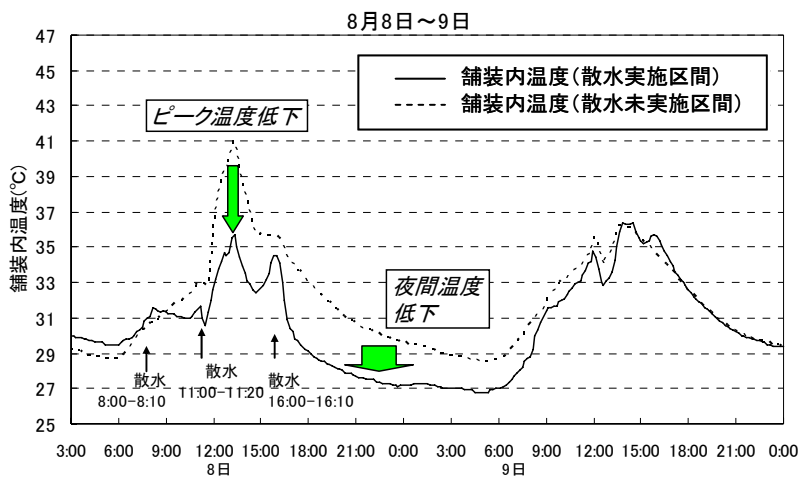


図-5 散水区間と未実施区間の舗装内温度の比較